

@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

目次

1。マニュアルの紹介 5

2。総合設定 6

2.1。スキャナのセットアップ 6

2.1.1.セットアップ コードを使用する 6

2.1.2.設定コマンドを使用する 6

2.2.デフォルト設定 7

2.2.1.工場出荷時のデフォルト設定に戻す 7

2.2.2.ユーザーデフォルト設定 7

2.3。製品情報問い合わせ 8

2.3.1。製品SN番号の問い合わせ 8

2.4。フィルライトとエイミングライト 9

2.4.1。補助光の色の選択 9

2.4.2。フィルライトとエイミングライトの設定 10

2.5。 LED インジケーターの設定 10

2.6。プロンプトトーン設定 11

2.6.1.起動音設定 11

2.6.2.プロンプトトーン設定のデコード成功 11

2.6.3.デコード成功プロンプトトーン持続時間の設定 12

2.6.4.デコード成功プロンプトトーン周波数設定 13

2.7。読み取りモード設定 13

2.7.1.マニュアルトリガーモード 13

2.7.2.連続トリガーモード 14

2.7.3.自動読み取りモード 14

2.7.4.シングルトリガーモード 15

2.7.5。コード読み取りタイムアウト設定 16

2.7.6.連続読み取り時間間隔設定 17

2.7.7.再読出し遅延設定 18

2.7.8.撮像モード 20

2.7.9.バッチ読み取りモード: 23

2.8.センターエリアのデコード 24

2.8.1.フルエリアデコード 24

2.8.2.センターエリアデコード 24

3。 USB 通信設定 25

3.1。 USB-HID キーボード 25

3.1.1.インターバル遅延設定 26

3.1.2.中国語出力設定 27

3.1.3.Caps Lock 設定 29

3.1.4.大文字小文字変換設定 29



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

3.1.5.キーボード言語設定.....30

3.2.USB-CDC シリアル ポート.....35

3.3. USB-HID-POS.....36

4。 TTL-232 シリアル通信設定.....36

4.1.ボーレート設定.....37

4.2。ストップビット設定.....38

4.3.データビット設定.....39

4.4。チェックデジット設定.....39

5。プレフィックスとサフィックスの設定.....40

5.1。カスタム プレフィックス.....40

5.1.1.カスタム プレフィックス設定を許可する.....40

5.1.2.AIM ID プレフィックス設定.....41

5.1.3。コードIDプレフィックス設定.....41

5.1.4.カスタマイズされたプレフィックス シーケンス設定.....41

5.1.5.カスタム プレフィックス設定の変更.....42

5.2。カスタムサフィックス設定.....42

5.2.1.ターミネータ サフィックス.....42

5.2.2.カスタム サフィックス設定を許可する.....43

5.2.3.カスタム サフィックス設定の変更.....44

5.2.4.改行設定.....44

5.2.5.データのパッケージ化.....44

6.バーコードパラメータ設定.....47

6.1.すべての 1D コードを許可/無効にする.....47

6.2.すべての 2次元コードを許可/無効にする.....48

6.3。 DPM 読み取りの許可/無効.....48

6.4。 GS1 識別子の括弧の折り返しを許可/無効にする.....48

6.5. Code128.....49

6.5.1.Code128 読み取りの有効化/無効化.....49

6.5.2。 C128 読み取り長の設定.....49

6.6. Code 39.....50

6.6.1。 Code 39 読み取りの有効化/無効化.....50

Code 39 送信スタートキャラクタとターミネータ.....50

6.6.2。 Code 39 送信チェック.....51

6.6.3。 Code 39 フル ASCII.....51

6.6.4。 Code 39 読み取り長の設定.....52

6.7。コーダバー.....52

6.7.1。読み取りの有効化/無効化.....52

6.7.2。 Codabar チェック ディジットの設定.....53

6.7.3。 Codabar の開始文字と終了文字.....53



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.7.4.読み取り長の設定.....54

6.8. Interleaved 2 of 5 54

6.8.1。読み取りの有効化/無効化..... 54

6.8.2.伝送チェック.....55

6.8.3.読み取り長の設定.....55

6.9. EAN-8 56

6.9.1。読み取りの有効化/無効化..... 56

6.9.2.チェック..... 56

6.9.3.2 桁の拡張コードを読み取ります.....57

6.9.4.5 桁の拡張コードを読み取ります.....57

6.9.5。拡張コードの強制読み取り.....57

6.10. EAN-13 58

6.10.1。読み取りの有効化/無効化..... 58

6.10.2.チェック..... 58

6.10.3。 2桁アドオンコード.....
59

6.10.4。 5桁アドオンコード.....
59

6.10.5。拡張コードの強制読み込み.....59

6.11. UPC-A 60

6.11.1。読み取りの有効化/無効化..... 60

6.11.2.チェック..... 60

6.11.3。 2桁アドオンコード.....
61

6.11.4。 5桁アドオンコード.....
61

6.11.5。拡張コードの強制読み込み.....61

6.11.6.先頭文字の送信.....62

6.12. UPC-E 62

6.12.1。読み取りの有効化/無効化..... 62

6.12.2.チェック..... 63

6.12.3。 2桁アドオンコード.....
63

6.12.4。 5桁アドオンコード.....
63

6.12.5。拡張コードの強制読み込み.....64

6.12.6.先頭文字の送信.....64

6.13。 IATA 2/5..... 65

6.13.1。読み取りの有効化/無効化..... 65

6.13.2.チェック..... 65

6.14. Code93 66

6.14.1。読み取りの有効化/無効化..... 66

6.15. Code 11 66

6.15.1。読み取りの有効化/無効化..... 66

6.15.2.チェック..... 67



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.16。プレシー 68

6.16.1。読み取りの有効化/無効化 68

6.16.2.チェック 69

6.17。 MSI プレッシー 69

6.17.1。読み取りの有効化/無効化 69

6.17.2.チェック 70

6.18。マトリックス 2 の 5 71

6.18.1。読み取りの有効化/無効化 71

6.18.2.チェック 71

6.19. GS1 DataBar 72

6.19.1。読み取りの有効化/無効化 72

6.20。 QR コード 74

6.20.1。読み取りの有効化/無効化 74

6.21。 MicroQR 75

6.21.1。読み取りの有効化/無効化 75

6.22. PDF417 75

6.22.1。読み取りの有効化/無効化 75

6.22.2。データマトリックス読み取りの有効化/無効化 76

6.23。アステカ コード 77

6.23.1。読み取りの有効化/無効化 77

6.24。ハンシン 77

6.24.1。読み取りの有効化/無効化 77

6.25。マキシコード 78

6.25.1。読み取りの有効化/無効化 78

6.26。グリッドマトリックス 79

6.26.1。読み取りの有効化/無効化 79

6.27. MicroPDF417 79

6.27.1。読み取りの有効化/無効化 79

付録 1 データコード 80



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

バージョン	
V1	20230101
V2	20250811

1. マニュアルの紹介

このマニュアルでは、このマニュアルのバーコードを使用してスキャナのデフォルトの機能パラメータを迅速に変更する方法について説明します。スキャナは工場から出荷されます



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

よく使用される関数パラメータが提供されています。これらの設定を変更する必要がある場合は、このマニュアルの設定コードをスキャンして変更できます。

設定。オプションの横のアスタリスク (*) はデフォルト設定を示します。

2. 総合的な設定

2.1.スキャナをセットアップする

スキャナをセットアップするには 2 つの方法があります

2.1.1。設定コードを使用する

スキャナパラメータを変更する前に、まず「設定コード有効化」をスキャンして設定コード機能を有効にする必要があります。設定完了後、「設定終了コード」をスキャンしてください
。

セットアップ機能をオフにするには、「セットアップ コードを閉じる」または本書に記載されているバーコード以外のバーコードを使用します。セットアップ コードはセットアップ関数として使用され、スキャナは送信しません。

受信ホストに送信されます。



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

2.1.2。設定コマンドを使用する

ユーザーは、シリアル ポート経由で設定コマンド文字列を送信して、スキャン エンジンを設定することもできます。たとえば、プロンプト音をオフにするには、「」を送信します。



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

弦。

2.2. デフォルト設定

2.2.1。工場出荷時のデフォルト設定を復元する

エンジンのどの構成オプションが変更されたかわからない場合、または一部のオプションを変更したためスキャン エンジンを元の状態に戻したい場合

工場出荷時のデフォルト設定の場合は、「工場出荷時の設定に戻すコード」をスキャンすると、スキャン エンジンのすべての属性設定が工場出荷時の状態に復元されます。



［工場出荷時の設定に戻す］

2.2.2。ユーザーのデフォルト設定

「ユーザーデフォルトに戻す」コードをスキャンすると、スキャナがユーザーデフォルト設定に切り替わります。「ユーザーデフォルトのクリア」をスキャンします。

「設定」コードはスキャナを工場出荷時の設定に変更し、すべてのユーザー設定をクリアします。



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



@CUSTDEF

［ユーザーのデフォルト設定に戻す］



@CUSTCLR

［ユーザーのデフォルト設定をクリア］

2.3。製品情報のお問い合わせ

2.3.1。製品のSN番号を問い合わせる

「Query Product SN Number」をスキャンして、製品の SN 情報を取得します。この設定コードをスキャナが読み取ると、製品のSN番号が出力されます。



QURERESN

【製品SN番号を確認する】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

2.4。フィルライトとエイミングライト

2.4.1。補助光の色の選択

補助光は 2 カラーをサポートします。ユーザーは、最適なデコード効果を得るために、さまざまなマテリアルに応じてさまざまな補助光の色を選択できます。



MLEDSET0

【赤色のみ点灯】



MLEDSET2

【白色のみ点灯】



MLEDSET3

*[白色光と赤色光のスマートな切り替え]



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

2.4.2。フィルライトとエイミングライトの設定



ALLIOPEN

※[フィルライトと照準ライトが両方点灯]



LASERON1

【照準灯のみ点灯】



LIGHTON1

【フィルライトのみ点灯】



ALLCLOSE

[補助光と照準は両方とも無効になります]

2.5.LEDインジケーターの設定



DCOKLED1

※【インジケーター点灯】



DCOKLED0

【表示灯消灯】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

2.6。プロンプトトーン設定

2.6.1。起動音設定



STARTUP1

*[起動音をオンにする]



STARTUP0

【起動音を消す】

2.6.2。デコード成功音設定



DCVOTOK1

*[デコード成功音をオンにする]



DCVOTOK0

[デコード成功音を消す]


@STASET1
【設定コードを有効化】


@ENDSET0
【設定コードを無効化】

2.6.3。デコード成功プロンプト音の長さの設定

40ms、80ms、120msからお選びいただけます。


DCV0TI40

［ビープ音の長さ（短）］


DCV0TI80

※[ビープ音の長さ(中)]


DCV0T120

【ビープ音の長さ（長）】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

2.6.4。デコード成功プロンプトトーン周波数設定

低周波、中周波、高周波から選択できます。



DCLOVFRG

【低周波(1600HZ)】



DCMIVFRG

*【IF (2700HZ)】



DCHIVFRG

【高周波(4200HZ)】

2.7。読み取りモードの設定

2.7.1。マニュアルトリガーモード

ボタンを押すとスキャンが開始され、ボタンを放すと読み取りが停止します。デコードが成功するか、1 つの読み取りがタイムアウトすると、読み取りは停止します。

手動トリガー モードでは、スキャナはコード読み取りタイムアウト (1-25s) を設定できます。



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



DCMOMANU

*[マニュアルトリガーモード]

2.7.2。連続トリガーモード

ボタンを押して放すと、スキャナは連続読み取りを開始します。もう一度スキャンボタンを押すと連続読み取りが停止します。ここ

このモードでは、連続読み取り間隔と再読み取り遅延を設定できます。



DCMOCONT

【連続トリガーモード】

2.7.3。自動読み取りモード

自動読み取りモードをオンにすると、ボタンやコマンドを押してもデバイスは自動的にコード読み取りモードをオンにします。



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



DCMOAUTO

【連続トリガーモード】

2.7.4。シングルトリガーモード

ボタンを押すと、スキャナはコードの読み取りを開始し、コードの読み取りが成功するか、設定されたコード読み取りタイムアウト時間に達するまでコードの読み取りを停止します。



DCMODONE

【シングルトリガーモード】



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

2.7.5。コード読み取りタイムアウト設定



[コード読み取りタイムアウト 5s]



[コード読み取りタイムアウト 10s]



[コード読み取りタイムアウト 15s]



[コード読み取りタイムアウト 20s]



*[コード読み取りタイムアウト 25s]



[コード読み取りタイムアウトのカスタマイズ]



【設定コードを有効化】

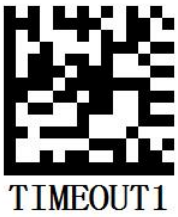


【設定コードを無効化】

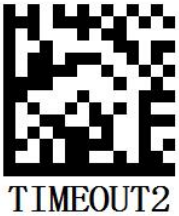
2.7.6。連続読み取り時間間隔設定



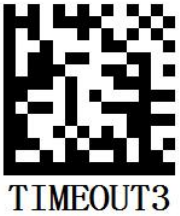
【連続読み取り間隔 0ms】



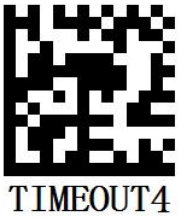
【連続読み取り間隔 100ms】



【連続読み取り間隔 300ms】



【連続読み取り間隔 500ms】



【連続読み取り間隔 1s】



【連続読み取り間隔 2s】



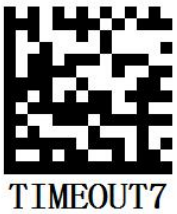
【設定コードを有効化】



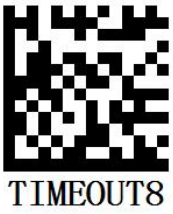
【設定コードを無効化】



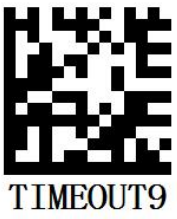
【連続読み取り間隔 3s】



【連続読み取り間隔 5s】



【連続読み取り間隔 10s】



【連続読み取り間隔 15s】



【連続読み取り間隔時間のカスタマイズ設定】

2.7.7。再読み込み遅延設定

再読み取り遅延をオンにすると、同じバーコードを繰り返し読み取る間に一定の時間がかかります。この時間間隔には、前回の同じバーコードの読み取りは含まれません。

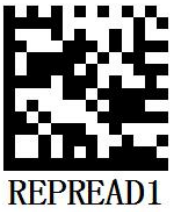
コードは遅延後に再読み取りされます。再読み取り遅延をオフにすると、同じバーコードを読み取る間に時間間隔がなくなります。



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】



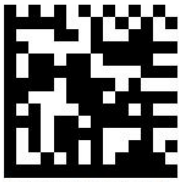
[読み取り遅延有効]



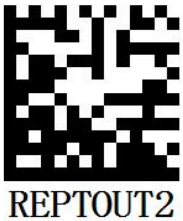
[*再読遅延シャットダウン]



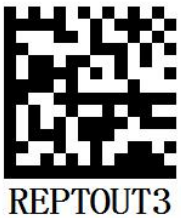
【リード遅延時間 500ms】



【リード遅延時間 1s】



【リード遅延時間 2s】



【リード遅延時間 3s】







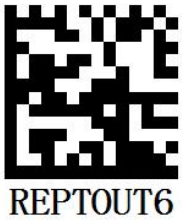
【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

【リード遅延時間 5s】

【リード遅延時間 10s】





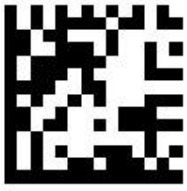
【リード遅延時間 15s】

[再読み込み遅延時間をカスタマイズする]

2.7.8。撮影モード

このモードでは、スキャナは自動的にバーコードを感知します。バーコードを感知すると、すぐにコードを読み取ります。コードが正常に読み取られたとき、または 1 回読み取られたとき

コードがタイムアウトすると、コードの読み取りが停止します。このモードでは再読み込み遅延を設定できます。



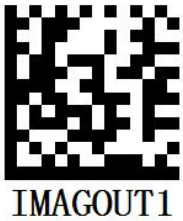
【撮影モード】



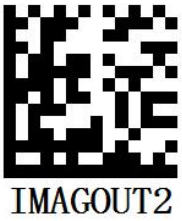
【設定コードを有効化】



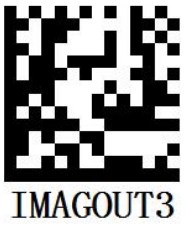
【設定コードを無効化】



【画像読み込みタイムアウト時間 1s】



【画像読み込みタイムアウト時間 2s】



【画像読み込みタイムアウト時間 3s】



【画像読み込みタイムアウト時間 5s】



[コード読み取りタイムアウトのカスタマイズ]



@STASET1

【設定コードを有効化】



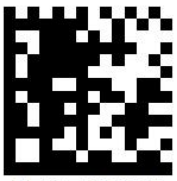
@ENDSET0

【設定コードを無効化】



SETSENTT

［手振れ補正時間の設定］



STABTIM0

【手ブレ補正時間 20ms】



STABTIM1

【手ブレ補正時間 50ms】



STABTIM2

【手ブレ補正時間 100ms】



STABTIM3

【手ブレ補正時間 300ms】


@STASET1

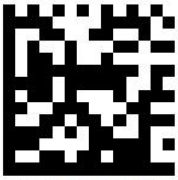
【設定コードを有効化】


@ENDSET0

【設定コードを無効化】


SENSITI0

【イメージセンサ感度高】


SENSITI1

※[イメージセンサ感度-中]


SENSITI2

【イメージセンサ感度が低い】

2.7.9。バッチ読み取りモード:

ボタンを押すとスキャナはコードの読み取りを開始し、ボタンを放すと読み取りを停止します。ボタンを押している間、同じバーコードは 1 回だけ出力されます。


DCMODBAT

【一括読み取りモード】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

2.8。センターエリアのデコード

2.8.1。フルエリアデコード

スキャナでキャプチャされた画像全体がデコードに使用され、最初に読み取られたバーコードが出力されます。



DCENTER0

※【全領域デコード】

2.8.2。センターエリアのデコード

照準ライトに向けてバーコードを読み取り、デコードします。



DCENTER1

【中央エリアデコード】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

3。 USB通信設定

USB は、次の 4 通信方式 USB-HID、USB-CDC、USB-HIDPOS をサポートします。

3.1.USB-HID キーボード

このモードでは、スキャナはキーボードに仮想化され、データをホストに出力します。



MOUSBHID

*【USB-HIDキーボード】



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

3.1.1。インターバルディレイの設定

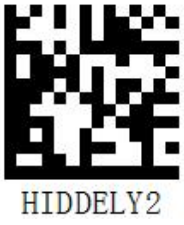
1ms、3ms、5ms、10ms、15ms を選択でき、デフォルトは 3ms です。



【文字出力間隔遅延 1ms】



*[文字出力間隔遅延 3ms]



【文字出力間隔遅延 5ms】



【文字出力間隔遅延 10ms】



【文字出力間隔遅延 15ms】



【文字出力間隔遅延 20ms】



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

3.1.2。中国語出力設定



※【中国語出力禁止】



【GBK出力】



【Unicode出力】

バーコードエンコード方式の選択: UTF-8,GBK、SHFIT-JIS、BIG-5、および自動適応。自動マッチングは UTF-8 のみをサポートします

GBKエンコーディング。



[UTF-8エンコード]



※【自動マッチング】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



CODEMOD2

[GBKコード]



CODEMOD3

【SHFIT-JISコード】



CODEMOD4

[BIG-5エンコード]



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

3.1.3。 Caps Lock 設定

オンにすると、バーコードデータに含まれる大文字と小文字を反転できます。ホスト キーボードの CapsLock キーのステータスに関係なく

状態に関係なく、この逆転は起こります。デフォルト: オフ。



LOCKCAP0

【Capsキーをロックしないでください】



LOCKCAP1

※【ロックキャップキー】

3.1.4。大文字と小文字の変換設定

「すべて大文字に変換」に設定すると、バーコードデータ内の小文字がすべて大文字に変換されます。逆に、次のように考えてみましょう

「すべて小文字に変換」に設定すると、バーコードデータ内のすべての大文字が小文字に変換され、デフォルトでは変換されません。

変化。



CHAROUT0

※【変換なし】



CHAROUT1

［すべて小文字に変換］



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



CHAROUT2

［すべて大文字に変換］

3.1.5。キーボードの言語設定

スキャナは、さまざまな国のキーボード形式をサポートしています。ユーザーは次のキーボード言語を設定できます。デフォルトはアメリカンキーボードです。



KBDSET00

※【アメリカ英語】



KBDSET01

【ベルギー(オランダ語)】



KBDSET02

【ブラジル(ポルトガル語)】



KBDSET03

【カナダ（フランス語）】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



KBDSET04

【フィンランド】



KBDSET05

【チェコ共和国】



KBDSET06

【デンマーク】



KBDSET07

【ドイツ(ドイツ語)】



KBDSET08

【フランス】



KBDSET09

【ギリシャ】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



KBDSET10

【ハンガリー】



KBDSET11

【イスラエル】



KBDSET12

【イタリア】



KBDSET13

【ラテンアメリカ（スペイン語）】



KBDSET14

【オランダ語（米国英語国際キーボード）】



KBDSET15

【ポーランド】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



KBDSET16

【ノルウェー】



KBDSET17

【ポルトガル】



KBDSET18

【ルーマニア】



KBDSET19

【スペイン】



KBDSET20

【スウェーデン】



KBDSET21

【スイス（ドイツ語）】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



KBDSET22

【スイス（フランス語）】



KBDSET23

【トゥルキエ】



KBDSET24

【イギリス】



KBDSET25

【日本】



KBDSET26

【スロバキア】



KBDSET27

【ロシア】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



KBDSET28

【ベトナム】



KBDSET29

【タイ】



KBDSET30

【マレーシア】



KBDSET31

【オランダ（オランダ）】

3.2. USB-CDC シリアル ポート

このモードでは、スキャナは仮想シリアル ポートに仮想化されます。操作方法は物理シリアルポートの操作と同様です。ドライバーはホスト側にインストールする必要があります。



MOUSBCDC

@STASET1
【設定コードを有効化】

@ENDSET0
【設定コードを無効化】

[USB-CDC シリアルポートモード]

3.3. USB-HID-POS

この方法は、アナログ キーボード インターフェイスよりも高速な USB-HID インターフェイスに基づいています。ただし、USB デバイスにアクセスするにはホスト側をプログラムする必要があります。

MOHIDPOS

【USB-HIDPOSモード】

4。 TTL-232 シリアル通信設定

「TTL シリアル ポート通信」をスキャンして、物理シリアル ポート通信モードに入ります。このモードでは、スキャナは物理シリアル ポートを介してホストと通信できます。

ニュース。ボーレート (つまり、伝送速度) を設定し、文字、データ ビット、ストップ ビットなどを確認できます。

MOPYUART



@STASET1
【設定コードを有効化】



@ENDSET0
【設定コードを無効化】

【TTLシリアル通信】

4.1. ボーレート設定



BAUDSET0

[ボーレート 1200]



BAUDSET1

[ボーレート 2400]



BAUDSET2

[ボーレート 4800]



BAUDSET3

[ボーレート 9600]



BAUDSET4

[ボーレート 14400]



BAUDSET5

[ボーレート 19200]



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



BAUDSET6

[ボーレート 38400]



BAUDSET7

[ボーレート 57600]



BAUDSET8

*[ボーレート 115200]

4.2.ストップビット設定



STOPBIT0



STOPBIT1



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

※【ストップビット】

【ストップビット2個】

4.3.データビット設定



DATABIT7



DATABIT8

[7 データビット]

*【8データビット】

4.4。チェックデジットの設定



CHEKDAT0



CHEKDAT1

※【チェックなし】

【偶数パリティ】



CHEKDAT2



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

【奇数パリティ】

5。プレフィックスとサフィックスの設定

5.1. カスタムプレフィックス

カスタム プレフィックスは、メッセージをデコードする前にユーザー定義の文字列を追加します。たとえば、カスタム プレフィックスの追加とプレフィックスの設定を許可します。

末尾に文字列「FT」が付加され、読み取られたデータは次のようになります。

「54123」のバーコードの後、スキャナは「54123」文字列の前に「FT」文字列を追加し、ホストは「FT54123」を受け取ります。

5.1.1。カスタムプレフィックス設定を許可します



PREFIX01

[カスタムプレフィックスの追加を許可する]



PREFIX00

*[カスタムプレフィックスの追加は禁止されています]



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

5.1.2. AIM IDプレフィックス設定



※[AIMIDプレフィックスの付加は禁止です]



[AIMIDプレフィックスの追加を許可]

5.1.3。コードID プレフィックス設定



※[CODEIDプレフィックスの付加は禁止です]



[CODEIDプレフィックスの追加を許可]

5.1.4。カスタムプレフィックスシーケンス設定



*[コードID+カスタマイズ+AIMID]



カスタム+コードID+AIMID



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

5.1.5。カスタムプレフィックス設定を変更する

まず「カスタム プレフィックスの変更」をスキャンし、設定するプレフィックス文字列の各バイトの 16 ベースを順番に読み取ります。

値を入力し、最後に「設定を保存」を読んでカスタムプレフィックスの設定を完了します。カスタムプレフィックス文字列の合計の長さは、10 を超えてはなりません

文字の場合、文字値の範囲は 0x00~0xFF です。



ECPREFIX

[カスタムプレフィックスを変更する]

5.2。カスタムサフィックス設定

カスタムサフィックスは、情報をデコードした後にユーザー定義の文字列を追加することです。たとえば、カスタム サフィックスの追加と設定を許可します。

サフィックスは文字列「FT」で、読み取りデータは

「54123」のバーコードの後、スキャナは「54123」文字列の後に「FT」文字列を追加し、ホストは「54123FT」を受信します。

5.2.1。ターミネータのサフィックス

ターミネータ サフィックスは、完全なデータ情報の終わりを示すために使用されます。 3 ターミネータ サフィックス CR (キャリッジ リターン)、CRLF (キャリッジ リターン) をサポートします。

改行)、TAB (水平タブ文字)。



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



SUFFIXCR

※【ターミネータサフィックスCR】



SUFFIXLF

[ターミネータサフィックス CRLF]



SUFFIXNO

[ターミネータサフィックスなし]



SUFFIXTB

[ターミネータサフィックスTAB]

5.2.2。カスタムサフィックス設定を許可します



SUFFIXS0

*[カスタムサフィックスの追加は禁止されています]



SUFFIXS1

[カスタムサフィックスの追加を許可する]

@STASET1
【設定コードを有効化】

@ENDSET0
【設定コードを無効化】

5.2.3。カスタムサフィックス設定を変更する

まず「カスタムサフィックスの変更」をスキャンし、設定するサフィックス文字列の各バイトの 16 ベースを順番に読み取ります。

値を入力し、最後に「設定を保存」を読み込むとカスタムサフィックスの設定が完了します。カスタムサフィックス文字列の合計の長さは、10 を超えてはなりません

文字の場合、文字値の範囲は 0x00~0xFF です。

ECSUFFIX

[カスタムサフィックスの変更]

5.2.4。改行設定

改行は許可されます。スキャン中に改行があった場合は改行で処理されます。

INVISCH1

5.2.5。データのパッケージ化

データの整合性と信頼性に対してより高い要件が求められる一部のアプリケーションでは、データ パッケージ化出力を使用して、データが確実に保存されるようにすることができます。

誠実さ。



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



PACKDAT0

※【データ梱包なし】



PACKDAT1

[データパッケージ化プロトコル1を許可]



PACKDAT2

[データパッケージ化プロトコル2を許可]

梱包契約書

プロトコル 1: [STX+ATTR+LEN]+[AL_TYPE+DATA]+[LRC]

STX：0x02

属性：0x00

LEN: DATA データの長さを上位バイトから 2 バイトで表し、値の範囲は 0~65535 です。



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

AL_TYPE：0x36

DATA: データ情報の内容

LRC：チェックキャラクタ

LRC：チェックキャラクタ。 LRC チェック文字アルゴリズム: 0xFF^LEN^AL_TYPE^DATA (^ は算術 XOR 演算を表します)

データはあります

バイト単位でXOR演算を行います。つまり、0xFF は LEN の最初のバイトと XOR 演算されて 1 バイトのデータが得られ、その後 LEN と結合されます。

2番目の

バイトは XOR 演算され、すべてのデータが XOR 演算されるまで XOR 演算が 1 回繰り返されます。取得されたデータの最後のバイトはキャリブレーションです

文字を確認します。

プロトコル 2: [STX+ATTR+LEN]+[AL_TYPE]+[Code_ID+DATA]+[LRC]

STX：0x02

属性：0x00

LEN: CodeID+DATA データの長さを上位バイトから 2 バイトで表し、値の範囲は 0~65535 です。



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

AL_TYPE：0x3B

CodeID: バーコードのシリアル番号、1 バイト（付録 4CodeID を参照）

DATA: データ情報の内容

LRC：チェックキャラクタ

LRC：チェックキャラクタ。 LRC チェック文字アルゴリズム: 0xFF^LEN^AL_TYPE^Code_ID^DATA (^ は算術 XOR を表します)

演算)、すべてのデータはバイト単位で XOR 演算されます。つまり、0xFF は LEN の最初のバイトと XOR 演算されてワードが取得されます。

次にセクション データは LEN の 2 番目のバイトと XOR 演算され、すべてのデータが XOR 演算されるまで XOR 演算が繰り返され、最後に

取得した 1 バイトのデータがチェックキャラクタです。

6。バーコードパラメータの設定

6.1.すべての 1D コードを許可/無効にする



AL1DEAN1

[すべての1次元コードを許可]



AL1DEAN0

【一次元コードは全て禁止です】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.2。すべての 2次元コードを許可/無効にする



AL2DEAN1

［すべての2次元コードを許可］



AL2DEAN0

【2次元コードは全て禁止です】

6.3.DPM 読み取りの許可/無効

DPM コードをオンにすると、デコード速度に影響します



DPMCEAN1

[DPMに読み取りを許可する]



DPMCEAN0

※【DPM読み取りを無効にする】

6.4。 GS1 識別子の括弧の折り返しを許可/無効にする



GSAIEAN1



GSAIEAN0



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

[GS1 識別子ブラケットのラッピングを許可する]

*[GS1 識別子ブラケットのラッピングを禁止]

6.5. Code128

6. 5. 1. Code128 読み取りの有効化/無効化



※【読取を許可】



【読取禁止】

6.5.2。 C128 読み取り長の設定



[最小長(デフォルト値:1)]



[最大長（デフォルト値：60）]



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.6. Code 39

6.6.1。 Code 39 読み取りの有効化/無効化



C39EANB1

※【読取を許可】



C39EANB0

【読取禁止】

Code 39 送信開始文字とターミネータ



C39TRSE1

[開始文字と終了文字の送信を許可する]



C39TRSE0

※[開始文字と終了文字の送信を禁止する]



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.6.2。 Code 39 送信チェック



C39NCHK0

※【チェックなし】



C39TCHK1

【チェックデジットをチェックして出力する】



C39TCHK0

【チェックはするがチェックデジットは出力しない】

6.6.3。 Code 39 フル ASCII



C39FUAS1

*【AllowCode39FullASCII】



C39FUAS0

【禁止 Code 39 Full ASCII】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.6.4。 Code 39 読み取り長を設定します



C39MILEN

[最小長(デフォルト値:1)]



C39MALEN

［最大長（デフォルト値：60）］

6.7.コーダバー

6.7.1。読み取りの有効化/無効化



CBAREAN1

※【読取を許可】



CBAREAN0

【読取禁止】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.7.2。 Codabarチェックデジットの設定



CBANCHK0

※【チェックなし】



CBARCHK1

【チェックデジットをチェックして出力する】



CBATCHK0

【チェックはするがチェックデジットは出力しない】

6.7.3。 Codabar の開始文字と終了文字



CBARTSE1

【送信開始文字とターミネータ】



CBARTSE0

*[開始文字と終了文字を送信しない]



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.7.4。コード読み取り長を設定する



CBAMILEN

[最小長(デフォルト値:1)]



CBAMALEN

［最大長（デフォルト値：60）］

6.8. Interleaved 2 of 5

6.8.1。読み取りの有効化/無効化



IN25EAN1

※【読取を許可】



IN25EAN0

【読取禁止】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.8.2。送信チェック



IN25CHK0

※【チェックなし】



IN25CHK1

【チェックデジットをチェックして出力する】



IN25CHK2

【チェックはするがチェックデジットは出力しない】

6.8.3。コード読み取り長を設定する



I25MILEN

[最小長(デフォルト値:1)]



I25MALEN

[最大長（デフォルト値：60）]



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.9. EAN-8

6.9.1。読み取りの有効化/無効化



EAN8EAN1

※【読取を許可】



EAN8EAN0

【読取禁止】

6.9.2。チェック



EAN8CHK1

※【チェックデジットを出力】



EAN8CHK0

【チェックデジットを出力しない】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.9.3。 2 桁の拡張コードを読み取ります



EAN8AD21

[2桁アドオンコードを読み取る]



EAN8AD20

※【2桁アドオンコードが読み取れません】

6.9.4。 5 桁の拡張コードを読み取ります



EAN8AD50

※【5桁アドオンコードが読み取れません】



EAN8AD51

[5桁アドオンコードを読み取る]

6.9.5。拡張コードの強制読み込み



EAN8REQ1

【必読】



EAN8REQ0

※【必ずお読みください】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.10. EAN-13

6.10.1。読み取りの有効化/無効化



EN13EAN1

※【読取を許可】



EN13EAN0

【読取禁止】

6.10.2。チェック



EN13CHK1

※【チェックデジットを出力】



EN13CHK0

【チェックデジットを出力しない】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.10.3。 2桁アドオンコード



EN13AD20

※【2桁アドオンコードが読み取れません】



EN13AD21

[2桁アドオンコードを読み取る]

6.10.4。 5桁アドオンコード



EN13AD50

※【5桁アドオンコードが読み取れません】



EN13AD51

[5桁アドオンコードを読み取る]

6.10.5。拡張コードの強制読み込み



EN13REQ1

【必読】



EN13REQ0

※【必ずお読みください】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.11. UPC-A

6.11.1。読み取りの有効化/無効化



UPCAEAN1

※【読取を許可】



UPCAEAN0

【読取禁止】

6.11.2。チェック



UPCACHK1

※【チェックデジットを出力】



UPCACHK0

【チェックデジットを出力しない】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.11.3。 2桁アドオンコード



UPCAAD20

※【2桁アドオンコードが読み取れません】



UPCAAD21

[2桁アドオンコードを読み取る]

6.11.4。 5桁アドオンコード



UPCAAD50

※【5桁アドオンコードが読み取れません】



UPCAAD51

[5桁アドオンコードを読み取る]

6.11.5。拡張コードの強制読み込み



UPCAREQ0

※【必ずお読みください】



UPCAREQ1

【必読】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.11.6。主役の送信



UPCATLC1



UPCATLC0

※【主役の送信】

[先頭文字を送信しない]

6.12. UPC-E

6.12.1。読み取りの有効化/無効化



UPCEEAN1



UPCEEAN0

※【読取を許可】

【読取禁止】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.12.2。チェック



UPCECHK1

※【チェックデジットを出力】



UPCECHK0

【チェックデジットを出力しない】

6.12.3。 2桁アドオンコード



UPCEAD20

※【2桁アドオンコードが読み取れません】



UPCEAD21

[2桁アドオンコードを読み取る]

6.12.4。 5桁アドオンコード



UPCEAD50

※【5桁アドオンコードが読み取れません】



UPCEAD51

[5桁アドオンコードを読み取る]



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.12.5。拡張コードの強制読み込み



UPCEREQ0

※【必ずお読みください】



UPCEREQ1

【必読】

6.12.6。主役の送信



UPCETLC1

※【主役の送信】



UPCETLC0

[先頭文字を送信しない]



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.13. IATA 2/5

6.13.1。読み取りの有効化/無効化



IA25EAN1

【読取を許可】



IA25EAN0

※【読取禁止】

6.13.2。チェック



IA25CHK0

※【チェックなし】



IA25CHK1

【チェックデジットをチェックして出力する】



IA25CHK2

【チェックはするがチェックデジットは出力しない



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.14. Code93

6.14.1。読み取りの有効化/無効化



C93EANB1

※【読取を許可】



C93EANB0

【読取禁止】

6.15. Code 11

6.15.1。読み取りの有効化/無効化



C11EANB1

※【読取を許可】



C11EANB0

【読取禁止】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.15.2。チェック



C11ECHK0

※【チェックなし】



C11ECHK1

【ちょっとしたチェック】



C11ECHK2

【2桁チェック】



C11TCHK1

※【チェックデジットを出力】



C11TCHK0

【チェックデジットを出力しない】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



C11MILEN

【最小読み取り長の設定】



C11MALEN

【最大読み取り長を設定する】

6.16. プレッシー

6.16.1。読み取りの有効化/無効化



PLESEAN1

※【読取を許可】



PLESEAN0

【読取禁止】


@STASET1

【設定コードを有効化】


@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.16.2。チェック


PLESCHK0

※【チェックなし】


PLESCHK1

【チェックデジットをチェックして出力する】


PLESCHK2

【チェックはするがチェックデジットは出力しない
】

6.17. MSI プレッシー

6.17.1。読み取りの有効化/無効化


MSIPEAN1

※【読取を許可】


MSIPEAN0

【読取禁止】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.17.2。チェック



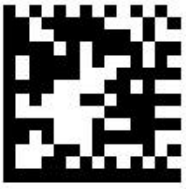
MSIPCHK0

【チェックなし】



MSIPCHK1

※【ちょっとしたチェック】



MSIPCHK2

【2桁チェック】



MSITCHK1

※【チェックデジットを出力】



MSITCHK0

【チェックデジットを出力しない】


@STASET1
【設定コードを有効化】


@ENDSET0
【設定コードを無効化】

6.18. マトリックス 2/5

6.18.1。読み取りの有効化/無効化


M25EANB1

※【読取を許可】


M25EANB0

【読取禁止】

6.18.2。チェック


M25NCHK0

※【チェックなし】


M25TCHK1

【チェックデジットをチェックして出力する】


M25TCHK0

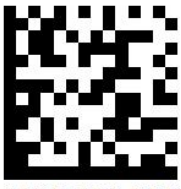
】【チェックはするがチェックデジットは出力しない



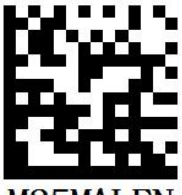
【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】



【最小読み取り長の設定】



【最大読み取り長を設定する】

6.19. GS1 DataBar

6.19.1。読み取りの有効化/無効化



※【読取を許可】



【読取禁止】



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】



【表現を限定して読取可能】



【読取禁止】



[拡張許可読み取り]



【長読み禁止】

6.19.2 GS1 複合コード



【読取を許可】



【読取禁止】



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

6.20. QRコード

6.20.1。読み取りの有効化/無効化



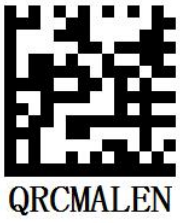
※【読取を許可】



【読取禁止】



【最小読み取り長の設定】



【最大読み取り長を設定する】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.21. マイクロQR

6.21.1。読み取りの有効化/無効化



MCQREAN1

※【読取を許可】



MCQREAN0

【読取禁止】

6.22. PDF417

6.22.1。読み取りの有効化/無効化



PDF4EAN1



PDF4EAN0



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

※【読取を許可】

【読取禁止】





【最小読み取り長の設定】

【最大読み取り長を設定する】

6.22.2。データマトリックスの読み取りの有効化/無効化





※【読取を許可】

【読取禁止】





【最小読み取り長の設定】

【最大読み取り長を設定する】



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

6.23. アステカコード

6.23.1。読み取りの有効化/無効化



※【読取を許可】



【読取禁止】



【最小読み取り長の設定】



【最大読み取り長を設定する】

6.24. Hanxin

6.24.1。読み取りの有効化/無効化







【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

※【読取を許可】

【読取禁止】





【最小読み取り長の設定】

【最大読み取り長を設定する】

6.25. マキシコード

6.25.1。読み取りの有効化/無効化





※【読取を許可】

【読取禁止】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】

6.26. グリッドマトリックス

6.26.1。読み取りの有効化/無効化



GMCOEAN1

※【読取を許可】



GMCOEAN0

【読取禁止】

6.27. MicroPDF417

6.27.1。読み取りの有効化/無効化



MPDFEAN1

※【読取を許可】



MPDFEAN0

【読取禁止】

6.28。ウェブサイトコード

2次元コード情報にはURLが含まれます。このコードを読み取るかどうかを選択できます。

@STASET1

【設定コードを有効化】

@ENDSET0

【設定コードを無効化】

HTTPEAN1

※【読取を許可】

HTTPEAN0

【読取禁止】

付録 1　データコード

DADIGIT0

【データコード 0】

DADIGIT1

【データコード 1】

DADIGIT2

【データコード 2】

DADIGIT3

【データコード 3】

DADIGIT4

DADIGIT5



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】

【データコード 4】

【データコード 5】





【データコード 6】

【データコード 7】





【データコード 8】

【データコード 9】





【データコードA】

【データコードB】



【設定コードを有効化】



【設定コードを無効化】



【データコードC】



【データコードD】



【データコードE】



【データコードF】



【設定データの保存】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】



@STASET1

【設定コードを有効化】



@ENDSET0

【設定コードを無効化】